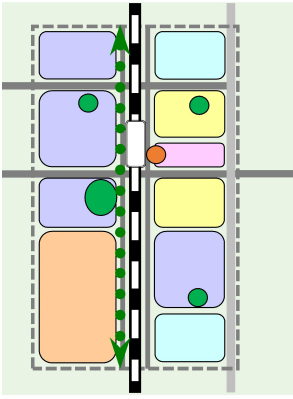
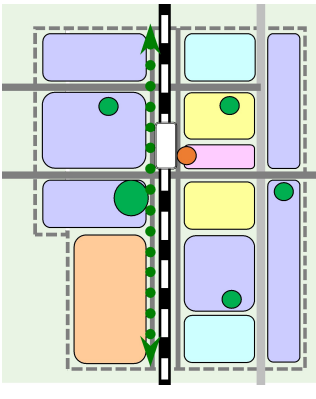
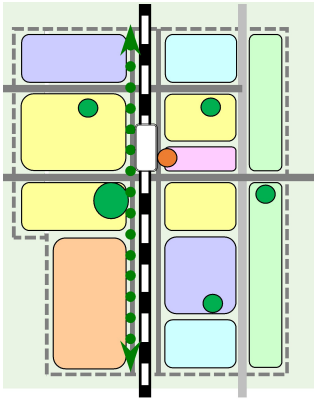


■ 過年度の土地利用検討

中間駅まちづくりの規模や土地利用について、昨年度の検討の中でパターンを設定したもの

土地利用パターン図

	交流人口創出型		定着・交流バランス型
	パターン1	パターン2	パターン3
			
	<p>【計画人口】</p> <p>定着人口：約500人</p> <p>交流人口：約3,500人</p> <p>【面積規模】約45ha</p>	<p>【計画人口】</p> <p>定着人口：約500人</p> <p>交流人口：約5,000人</p> <p>【面積規模】約65ha</p>	<p>【計画人口】</p> <p>定着人口：約4,000人</p> <p>交流人口：約1,500人</p> <p>【面積規模】約65ha</p>

配置する土地利用の考え方

土地利用	配置する土地利用の考え方	
	交流人口創出型	定着交流バランス型
既存産業地	既存工業系施設の受け皿となる既存産業地を配置。	○
新規産業地	新たな企業を誘致する新規産業地を配置。	○
複合商業地	居住者・学生・従業員・来訪者の利便性、駅周辺地区の拠点性向上を踏まえ、地域に密着し、地域交流を促進する複合商業地を配置。	○
一般住宅地	開発区域内の既存居住者や新規居住者の受け皿となる住宅地を配置。	○
ゆとり住宅地	周辺の自然環境と調和する特色ある住宅地として、ゆとり空間を兼ね備えた住宅地を配置。	—
大学	目白大学用地として配置。	○
公共施設	憩い・交流等の場として、緑豊かな公園を配置。駅・公園・各土地利用をつなぐ歩行者動線を配置。	○